

## 広島県集落対策に関する検討会議（第5回）

日 時 令和6年2月5日（月）14:00～16:00

場 所 広島県庁北館2階 第1会議室

### 1. 開会

作野座長より開会挨拶。委員の出欠について

出席者：作野座長、浦田委員（オンライン）、材木委員、清水委員、早田委員（オンライン）、沼尾委員、山田委員

### 2. 議題

(1) 最終取りまとめ（案）について

【資料1、2、3】

### 3. 意見交換

(1) 最終取りまとめ（案）について

構成員 ・ 気になったことを2つ申し上げたい。1点目は、座長の挨拶で、フルセットの行政サービスが難しくなる中で、今後の集落対策をどうしていくかという話があった。そのフルセットというのは何かということが問われると思う。対人社会サービス分野では、フルセットは難しいといわれるが、例えばDXを進める中で、デジタル化を通じて一定の補完ができるのではないか。市町あるいは県としてそこを補完するような仕組みを、デジタル化も含めて考えていくという視点が入ってもいいのではないかと感じた。

2点目としては、地区の課題を含め、現場で何が起こっているのかということを確認した上で問いをたてる、あるいは施策を考えるというのは非常に重要だと思う。具体的にどのように県と市町で課題認識を共有していくのかというところが、もう少し具体的に考えられてもいいのではないかと思う。

広島県 ・ DXを活用した課題解決の考え方だが、第Ⅱ期中山間地域振興計画でもデジタルの活用について記載している。デジタル技術を活用した課題解決は県としても推進しており、引き続き取組んでまいりたい。集落対策でまたデジタル化が必要であれば今後検討していきたい。

構成員 ・ DXの利活用の仕方は手段として、色々なことがありえると思う。県と市町や、そこに民間も入れてとなると思うが、大きな絵姿を共有した上で、全体のプロセス設計と社会全体の構図をどうアーキテクチャーとして描いていくのがポイントになる。また、そのためには、きちんとファシリテーターを入れながら進めていくことが重要だと思う。絵に描いた餅になってしまうというのが一番の懸念点なので、実行する場合にはご協力させていただきながら、実現できればいいと思っている。

座長 ・ 進めていくためのアドバイスをいただいたように思う。今の検討委員の皆さんは各分野から集まっておられるので、こういう方々が深く議論が出来るようになるべきではないかと考える。本文では、アドバイザリーボードという表現にとどめているが、そのあたりは今後の議論になると思う。

構成員 ・ 集落対策も含め、地域の課題を解決しながら、関係人口も創出している地域を見ると、2つの方向からの取組が行われている。1つは、県や市町が政策課題を認識し

つつ、しっかり財源も確保して、それに対しどういうふうに取り組むのかを、制度的に把握しながら対応を行っている。もう1つは、現場では日々、色々な課題が具体的に起こっており、その場で臨機応変に対応しながら課題を解決していく。その2つの仕組みの組み合わせが非常に重要になってくると思っている。

2つ目に述べた現場とリアルタイムがつながり、そこに情報も流れていく、そしてスピーディーな対応や関係性をサポートする仕組みをどのように用意できるかが、これからの中山間地域の支援においては大変重要ではないかと思っている。

構成員 ・まずは地域そのもので何が起きているのかということ、顔と顔が見える関係性の中で寄り添いながら、聞き取っていただけるプロ集団が必要だと思っている。そのプロ集団の方々が、またそれを持ち寄って課題を解決する方法や制度につなげていくことが重要だと思っている。

構成員 ・協議会の場だけではなく、実際に市長や町長が、自治会などで活躍されている方の考えなども含めて聞くといいと思う。

座長 ・私は「上から」と呼んでいるが、いわゆるシステムとしてマネージメントしてく流れと、ボトムアップとして現場から積み上げていく対応がある。その後者の方は、人や組織をある程度育てたり作ったりしていかないと難しいというのが正直な気持ちである。そして、その両者の落ち合う点を私は「リエゾンポイント」と呼んでいる。そこにアドバイザリーボードが助言などをすることで、色々な政策や現場も動いていくのではと考えている。

構成員 ・アドバイザリーボードの方に中間支援組織の仕事も入っているような感じに聞こえたが、いかがか。

座長 ・中間支援組織は、もっと現場に近い存在であり、住民の皆さんが主体的に活動することをサポートする存在だと思っている。それに対してアドバイザリーボードは、広島県の一組織だと思っている。私が思っているのは、年間3～4回の会議で議論をし、計画がうまくいっているか。あるいはもっと進めるべきだというようなことをアドバイスして、しっかりと受け止めていただく。そんな仕組みがあればと考えている。

構成員 ・集落対策は、交通・子育て・介護など色々な分野が組み合わさって集落対策だと思う。人口減少、少子高齢化が非常に進んでいて、居住継続が難しいというレベルの地域では、一つの分野だけで集落対策が成しえるはずもなく、色々な行政計画の組み合わせによって、地元の行政や自治組織の方々が工夫しながら、課題解決している。県の行政計画の中で、分野ごとにどういう行政計画があって、この分野の集落対策だということの方がわかる何かがあると見えやすいかなというふうに思った。

広島県 ・基本的に中山間地域振興に関しては先ほど言われたように、全てが絡み合ったものだと思っている。まずはチャレンジビジョンというものがあり、その下に中山間地域振興計画がある。中山間地域の医療や交通、その他の分野も含め策定している計画と、今回の集落対策はその積み残しということで、セットで方向性を考えていくものと思っている。

構成員 ・1点目として、本編のP10 辺りに、将来、集落の小規模化や無住化の懸念というトレンドが出ているが、結局この無住化していく、あるいは小さくなっていく集落をどうするのかということが、取りまとめの中でうまくリンクされていないと感じた。地区の中に無住化した集落が出て地区として存続するのか、あるいはそういった

懸念はあるが、やはりそこに住む方は引き続き安心して暮らしていけるというよう  
なこととリンクさせて書くとより良いと思う。

2点目として、P7に「従来の対策の延長線上に地域運営」とあるが、ここはもう少し  
わかりやすい表現になるよう工夫されると良いと思う。

3点目として、県と市町の課題認識の共有とあるが、10～15年先はこういう形で考  
えられるというのを伝えていく、住民の方とイメージを共有していくことが重要に  
なってくると思う。

広島県 ・ 2点目の、これまでにない地域運営の在り方だが、具体的に P23 の取組方針でいく  
と、「3 広域マネジメント」「4 空間管理」などはこれまでも検討されてきた  
が、なかなかここまで考えをお持ちいただいていないと思う。

3点目の課題認識の共有は、集落で話し合っていたときに、どういった状況にな  
るといふ方向性がある程度描きながら話し合っていたことが重要だと思う。具  
体的には、将来推計的なもの。今回は広島県の全体を示しているが、そこを農業集  
落で見た場合には、こういったことが見込まれるとか、そういった将来像を提示し  
ながら、どういったターニングポイントで、分岐点がいつ訪れるかということにな  
ろうかと思う。

座長 ・ ご指摘いただいた3点目は、今後もう少し議論が必要だと思う。ポイントはやはり  
地域のことを住民のみが考えるのは当然で、まず第一歩なのだが、それだけでは限  
界があり、関係人口や自治体、みんなで考えるという体制づくり。そうすると色々  
な知恵やサポートが出てくるのではないか。そんなふう置き換えていかないと、  
住民だけだと、数字を見て諦めが出たり、高齢化の結果そういうことを考えたくな  
いというような消極的な動きになったりすることを懸念している。

構成員 ・ 県・市町・住民の3者がうまく連携をしていく必要がある、P37をよく見ると、県  
と市町の連携だけになっている。県・市町・地域住民の3者連携といったことを少  
し書き加えるだけでも違うと思う。

構成員 ・ 地域に住む一人としては、危機意識だけを煽られても、そこに住む人の元気が失わ  
れてしまうという懸念がある。そうではなく、課題解決方法や支援の継続の説明、  
中山間地域の価値の共有もセットで、住民参加型で切り開いていく未来ビジョンを  
共有していくことが大事であると思う。

構成員 ・ 現場で課題が出てきたときに、集落や地区における住民のウェルビーイングを考え、  
施策や事業にどうつないでいくのかというチャンネルをどのように考えるのが  
大切だと思う。例えば学校の統廃合も国の方針も含めてどんどん進められているが、  
本来はその地域に小学生が通える学校があるかないかというのは、関係人口が増え  
るかどうかもかなり影響している。そういう地区のこれから10年20年先の戦略  
を考えたときに、中長期的にどう判断するのか、個々の施策や事業の判断につな  
がってくるボトムアップ型の眼差しというものがある。そこをどう考えていくのかと  
いうことは、改めて問われていると思う。これらを文言の形で落としこむのは難し  
いところがあると思うが、ぜひ先ほどの対策を推進するための仕組みとか今後の対  
応方針の中で県としての、中山間地域の在り方というもの分野横断的に考えてい  
く枠組みの必要性というところについて一文入れていただけるといいと思う。

座長 ・ 私も全く同じ思いでいる。目指すのはそういうところで、それを色々なスケールで  
やっていかないといけないと思う。一番わかりやすいのは地区単位に置かれるよう

な地域運営組織というのは、地区ベースで横串を刺すというところであった。振り出しに戻るような整理だが、そういう組織が広島県内にもいっぱいあるが、それがもたなくなっているというような、厳しい現実もある。この辺りは、これで終わりではないと思う。今後も挑戦し続ける集落対策だと思うので、正直、残された課題があってもいいかなとは思っており、今後反映させていきたいと思う。

以上